

七 養 だ よ り

発行
 青森県立七戸養護学校
 青森県上北郡七戸町字蛇坂 57-31
 TEL (0176) 62-2331
 FAX (0176) 62-4535
 ホームページ
<http://www.shichinohe-shien.asn.ed.jp>



「常に前進」
 校長 伊藤 良輔

七戸養護学校は「地域に根ざした特色ある学校づくり」を学校創りの柱としています。その考え方は、皆様との絆を一層深め、こどもたちだけでなく、保護者も教職員も成長し、地域の絆づくりに貢献できる学校でありたいと願っています。

学校とは「安心・安全のもとで、ともに出会い、学び、感動し、成長する場であり、誰もが行きたいと思える楽しい場」でなければなりません。と考えています。そして、人は誰でも豊かにして無限なる可能性を持ち、よりよく変われる、成長できるという基本的な考え方のもと、「児童生徒一人ひとりの、よさを見つければ、認め、伸ばす教育」の実現を目指し、笑顔あふれる七戸養護学校になれるよう努力して参ります。

さらに、児童生徒が自分の学校に誇りを持ち、主体的に学校創りに参加する自治活動を尊重し、保護者、地域の皆様と共に力を結集して、理想の学校を目指して参ります。

たくさん「笑顔」があふれる学校に向けて、力強く踏み出したいと考えておりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



あいさつの力
 教頭 川村 幸治

新しい年度が始まって早3ヶ月が経ち、新入生として入学・転校してきた児童生徒も本校の学習や生活に慣れてきたようです。

私が本校に赴任してからずっと続けていることがあります。それは『あいさつ』です。朝の登校時、帰りの下校時に、玄関先にほとんど毎日のように立って廊下を歩いてきた児童生徒に「おはようございます。」「さようなら。」「と挨拶を行っています。私は高部生徒玄関に立ち、そこを毎年のように小学部一年生の児童が教室に行くために私の前を通って行きます。入学後すぐの頃は、挨拶する私に「なんだ!?!、この人?」的な表情で通り過ぎていきました。(毎年の風景です笑。)

こどもたちが毎日通る度に、「おはようございます。」「さようなら。」「と私からの「あいさつ」に慣れ、「おはようございます。」「と言葉で返してくれる子、言葉の代わりに手と手を広げて「タッチ」で返答してくれる子、私の行動(あいさつ)に一人一人反応してくれる児童生徒たちが増えていきます。また、私を目で見ているにも関わらず、どうしても反応してくれない子もいますが、それでも私が挨拶を続けていると、ある日突然「おはよう。」「や「タッチ」で反応し始めてくれる子もいて、そんなとき、私は、びっくりしながらもとても嬉しくなる瞬間で「やったー!」と心でガッツポーズをしています。それからは、私の『あいさつ』に元気良く「おはよう」と挨拶を返し、すっかり頼もしい顔つきになっています。

このように「あいさつ」一つを見ても、児童生徒は、日々の学校という楽しくて刺激的な生活環境の中で、様々なことを体験し、成功と失敗を繰り返しながら成長しています。

夏真っ盛りで緑の木々や草木も大きくなる時期ですが、それに負けないよう、これからも児童生徒たちもすくすく健やかに成長してほしいと願っています。

これまで通り、教職員全員で見守り、時には一緒に笑い(泣き)、時には一緒に共感し合いながら一日一日を大切に過ごして参りたいと思います。

「児童生徒会役員になって」

児童生徒会 会長 木村大樹
 僕が児童生徒会会長になった理由は、全校の皆さんが明るく楽しく過ごせる元気な学校にしたいと思ったからです。そのためには、児童生徒も先生も、挨拶や返事をする事でお互いに良い気持ちになると思っています。また、生徒会役員で話し合い、明るく元気で楽しい学校を作りたいと思います。一年間よろしくお願ひします。

児童生徒会 副会長 富士頼輝
 僕が児童生徒会副会長になった理由は、生徒会活動を通して、いじめのない、皆さんが笑顔で安心して生活できるような学校にしたいと思ったからです。そのために、自分から挨拶をし、皆さんが挨拶をしやすい環境にします。挨拶をすることで、笑顔で安心して過ごせる学校になると思います。一年間よろしくお願ひします。

児童生徒会 書記 櫻田晃崇
 僕が児童生徒会書記に立候補した理由は、生徒会書記に興味があったからです。生徒会活動では、誰でも読める文字を書きたいです。緊張せず、一年間よろしくお願ひします。



小学部
低学年

運動会「ハッピーダンス
玉入れ」

最初は、初めての七戸町総合アリーナでの実施ということで、不安と期待が交互に入り交じっていたのが正直な気持ちでした。ですが、練習を重ねていくにつれて、その不安が1%もなくなっていくきました。それもそのはず、七戸町総合アリーナでの1回目の練習では、学校で練習した短距離走と団体競技の動きを覚えていて、スムーズに動くことができたのです。こどもたちの力と職員の協力によって、小低が一つになった瞬間でした。

本番では、多くの保護者の方に見守られながら、精一杯自分のもってる力を発揮できたと思います。玉入れやダンスにおいては、勝敗はつきませんが、どちらのチームも素晴らしかったです。運動会を通して、成長を感じられたことが、とても良かったです。

(木村 良子)



小学部
高学年

運動会「ボールはこびりレ」

今年は、初めての試みとなる、七戸町総合アリーナで運動会が行われました。約2週間、各競技の練習を積み重ねてきました。

短距離走では、ゴールをするまで勝敗の分からない高学年らしい白熱した走りがあり、とても盛り上がりました。

団体競技は、普段異なるグループで授業をしているこどもたちがチームとなり、「心を一つに」を目標に、一つのボールを繋いで運びました。練習では、ペアで運ぶ速さが合わなかったり、ボールが落ちてしまったりというハプニングもありました。しかし、練習を重ねることで、コツを掴んだり、互いに声を掛け合ったりするなど、運動会当日は、心を一つにして、競技に取り組む姿がとても素敵でした。

(住谷 祐太)



中学部

運動会 団体種目
「TSUNAHIKI」

五月の運動会では、たくさんの方の声をいただき、ありがとうございます。中学部では、団体種目として綱引きに取り組んで2年目となりました。昨年度取り組んでみて、みんなでの一つの目標に向かっていく感じや学部のまとまりが強く感じられました。

今年度は青森県綱引連盟さんのご協力をいただき、綱を貸していただいたり、指導に来ていただいたりしました。指導内容の一つとして、バンザイで待機ではなく、最初から綱を持ち、相手チームの力を感じながら合図を待つ引き合うという、競技に近いスタイルにした点があります。お気付きいただけでしょうか？

保護者の皆様にも、中学部生徒の一体感や迫力を感じていただけたら幸いです。

(佐藤 秀憲)



高等部

「絶賛！
輝いています」

【第一学年】
高等部の学習に少しずつ慣れ、笑顔が増えてきています。六月、事業所見学では、卒業して働いている先輩たちを見て、仕事を知り、機会になり、自分に合う仕事は何かと考えることとなりました。

【第二学年】
五月、校内実習で一年生と一緒に作業学習に二週間取り組みました。三年生は現場実習のため不在だったことから、親身になって後輩たちに作業が上手になる方法を丁寧にアドバイスしていました。

【第三学年】
四月は社会科見学、五月は産業現場等における実習、六月は修学旅行、というように、毎月校外行事がありました。様々な経験をし、旅行先では自ら聞きたいことを質問する生徒を目的にしたりし、堂々としたたくましさを感じました。日々の学習で、生徒たちは輝きを放っています。(上野 美幸)